

PoINT Archival Gateway V3.0 での追加機能は以下の通りです。

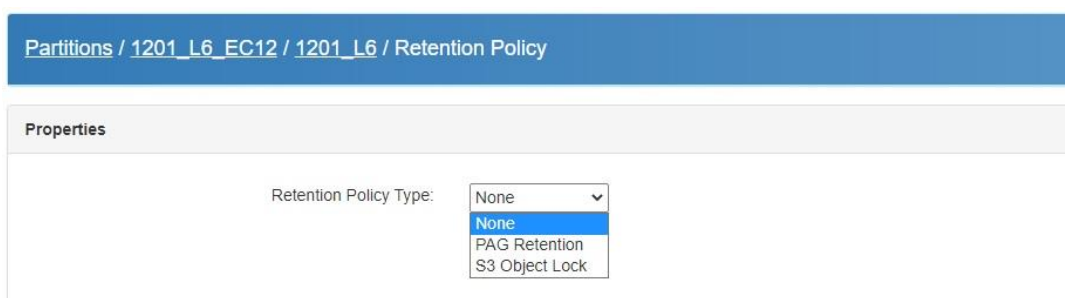
オブジェクトのロックとタグ付けが可能に

S3 REST API が拡張され、オブジェクトのタグ付けやロックなどの操作を提供します。オブジェクトのロックは、Bucket 単位で指定出来ますが、既存の Bucket にオブジェクトロックの機能を追加することは出来ません。有効にすると、オブジェクトを削除することが出来なくなります。PoINT Archival Gateway は、従来のバージョンでは、オブジェクトに対して Retention(保管期間)を設定すると対象のオブジェクトを削除出来ないようにする機能を独自の機能として持っていました。V3.0 では、これを拡張し、S3 REST API から実行出来るようになりました。

S3 Object Lock mode

PoINT Archival Gateway は S3 Object Lock モードの概念をサポートし、主に S3 クライアントインターフェースを通じて対応するアクセスおよび制御機能を提供します（8章参照）。

さらに、パーティションマネージャーはこのオブジェクトロックモードを有効にし、既存のバケットのデフォルトのロックポリシーを変更することができます。このリテンションモードを有効にする前に、オブジェクトのバージョンングが有効になっている必要があり、このリテンションモードを有効にした後にオブジェクトのバージョンングを変更することは出来ないことに注意してください。



オブジェクトロックオプションの変更、一時停止と再開コマンドはすべて、PoINT Archival Gateway システムの監査ログに記録されます。

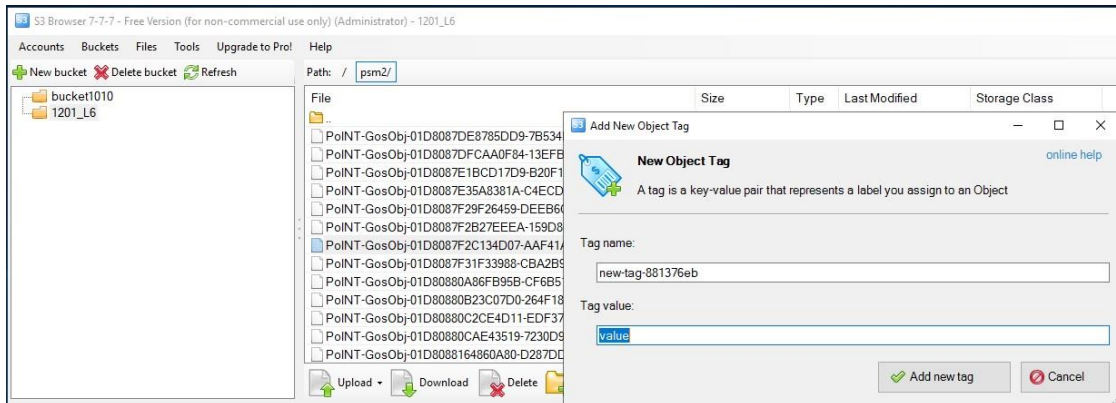
Object Tagging

PoINT Archival Gateway はオブジェクトのタグ付けの概念をサポートし、対応するアクセスおよび制御機能をクライアントインターフェースを通じて提供します（8章参照）。

オブジェクトとオブジェクト・リポジトリのタグセットは、いつでも変更または削除することができ、オブジェクト・リポジトリのオブジェクト・データベースに登録されます。タグセットは、ローカルディスク

クの必要容量、特に大容量ボリュームの必要容量を増加させることに注意すること。

以下は、一般的な S3 クライアントソフトの S3 Browser で、アーカイブされているオブジェクトにタグを追加している際のスクリーンショットです。



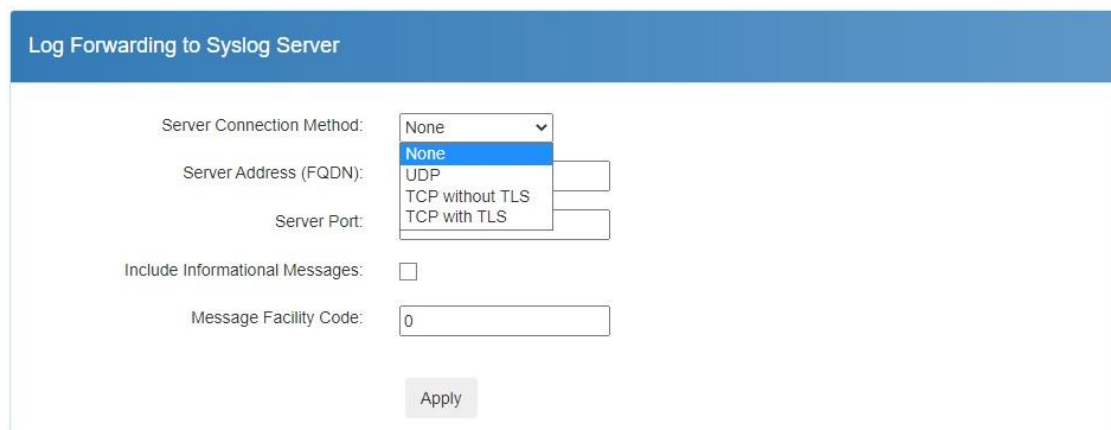
ログメッセージの Syslog サーバーへの自動送信が可能に

Log Forwarding (syslog)

PoINT Archival Gateway は、[SYSLOG] や RFC 5425、RFC 5426 などの補足仕様で規定されている syslog プロトコルを使用して、ログファイルの UTF-8 エンコードされたテキストレコードを専用の syslog レシーバーに転送することが可能です。仕様で推奨されているように、PoINT Archival Gateway はテキストレコードの前にバイトオーダーマーク (BOM) を配置します。

サポートされているトランスポートプロトコルは UDP と TCP です。シスログレシーバーは通常、ポート番号 514 (UDP)、1468 (TCP) または 6514 (TCP/TLS) を使用します。

Note: 設定されている Syslog レシーバーにアクセス出来なかったり、ログメッセージの受信を拒否した場合には、PoINT Archival Gateway は、受信されなかったメッセージを再度送信しません。



ユーザーマニュアルを V3.0 の内容に更新しました。以下が新しく追加された内容です。

新たに、IBM Enterprise Drive がサポートされています。
テープカートリッジのオフライン管理が可能になりました。

Information and License

システム情報ページには、インストールされているシステム・ソフトウェアに関する情報と、インストールされているソフトウェア・ライセンスに関する情報が表示されます（シリアル番号、コンフィギュレーション・キー、ライセンス・キー、一時的に付与されたライセンスの場合は、一時的なライセンスが失効する日時など）。

PoINT Archival Gateway は、一時的なライセンスの予期せぬ失効やシステムのダウンタイムを回避するために、失効の約 1 週間前から 1 日 1 回、警告メッセージの記録と適切なアラートの送信を開始します。

System Information

System Software

Company Name:	PoINT Software & Systems GmbH
Product Name:	PoINT Archival Gateway
Product Version:	3.0.190
Custom System Name:	<input type="text"/> <input type="button" value="Apply"/>
Copyright:	© PoINT Software & Systems GmbH 1994-2022 All rights reserved

Software License

Serial Number:	7000100004191114
Configuration Key:	P67V6-APUUA-D6SS6
Product Key:	998496db-66bb
License Key:	<input type="text" value="3RZ9-F2GB-S6KQ-PLQ2-N"/> <input type="button" value="Apply"/>
License Period:	Expires on 2022/05/31 23:59:59
License Status:	Valid
License Options:	Archival storage - capacity: 10 TB Archival storage - media changer units: 2 Archival storage - active drive groups: 24 Number of database nodes: 2 Programming Interface: disabled

Tape Libraries

PoINT Archival Gateway システムでは、最大 8 台のテープライブラリと 20 台のテープドライブを制御することができます。十分な数のアダプタカード（FC アダプタやポートなど）があれば、最大 16 台のテープドライブを特定の PAG-IFN サーバシステムに接続することができます。

ライブラリ（すなわちロボティクス）制御インターフェースは、すべての PAG-DBN サーバーシステムに接続する必要があります。PoINT Archival Gateway は、一度に 1 つの PAG-DBN だけがインターフェースを使用するように注意します。

PoINT Archival Gateway は、M8 フォーマットを含む第 5 世代から第 9 世代までの LTO テープドライブとメディア、さらに IBM 3592 ドライブの TS1150/TS1155/TS1160 とメディアタイプ C, D と E（カートリッジのモデルとしては、JC, JD, JE, JK, JL, JM, JY, JZ, JV とフォーマット E08, 55F, 60F）をサポートしています。異なるタイプや世代のメディアを同じプロテクトボリュームアレイに混在させることは出来ませんが、異なるアレイは異なるメディアで構成され、同じアーカイブストレージパーティション内に共存させることができます。

Device Related Properties

Device Class: Tape Library

Erasure Code Rate: 1/2

Media Allocation Strategy: Ascending

Media Pre-Allocation Threshold (percent): 0

Media Parallelism: 1

Media Allocation Order: Balanced

Preferred Media Type: LTO-6

Alternative Media Type: LTO-6

Media Allocation Restriction:















- LTO-5
- LTO-6
- LTO-7
- LTO-M8
- LTO-8
- LTO-9
- LTO-5 (WORM)
- LTO-6 (WORM)
- LTO-7 (WORM)
- LTO-8 (WORM)
- LTO-9 (WORM)
- JC
- JD
- JE
- JC (WORM)
- JD (WORM)
- JE (WORM)
- JC (ECO)
- JD (ECO)
- JE (ECO)

Offline Media Management

メディアは、接続され動作可能なライブラリ・ユニットのいずれにも現在存在せず、アクセスできない場合、オフラインであると見なされます。PoINT Archival Gateway のシステム管理 GUI では、オフラインのメディアを、そのメディアが最後にオンラインになったライブラリ・ユニットの名前も含めて一覧表示できます。

Offline Media

Filter:

Device Name	Barcode	Media Type	Volume State	Archival Storage Partition	Delete
Tape Library	000001L5	LTO-5	Formatted	1010_EC12	
Tape Library	000004L5	LTO-5	Formatted	1010_EC12	
Tape Library	000002L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000006L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000008L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000010L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000007L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000011L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000009L5	LTO-5	Obsolete	n/a	
Tape Library	000003L5	LTO-5	Unknown	n/a	
Tape Library	003L5	Not Supported	Unknown	n/a	
Tape Library	000012L5	LTO-5	Available	n/a	
Tape Library	000013L5	LTO-5	Available	n/a	
Tape Library	P0409SL6	LTO-6	Available	n/a	

クライアント・アプリケーションがオフライン・メディアのデータにアクセスすると、アクセスは失敗し、PoINT Archival Gateway はアプリケーションに適切なエラー・レスポンスを送信します。この場合、オペレーターはそのメディアを操作可能なライブラリ・ユニットのいずれかに再度インポートして、アクセスを成功させる必要があります。

Note: オフラインのメディアを PoINT Archival Gateway のデータベース内のメディア・インベントリ・リストから削除してリストをクリーンアップするには、メディアが使用中であるか、言い換えればアーカイブ用ストレージ・パーティションに割り当てられている必要があります（第 7 章、ストレージ管理参照）。PoINT Archival Gateway は、メディアが使用中の場合、削除の試みを拒否します。

メディアをオンラインまたはオフラインで取り出すには、ライブラリユニットのメールボックスを使用するのが好ましい手順です。次のセクションでは、その手順について説明します。

Exporting media

ライブラリ・ユニットがエクスポート・エレメントからなるメールボックスを提供している場合、システム管理 GUI でエクスポート・コマンドのいずれかを発行し、ユニットのデバイス・プロパティで自動エクスポート機能を有効にすれば、オンライン・メディアをユニットからエクスポートすることができます。この機能を有効にすると、PoINT Archival Gateway はエクスポート用にマークされたすべてのメディアをフリーのエクスポートエレメントに移動し、メディアはオペレーターがエレメントから手動で削除することができます。詳細については、ライブラリユニットのユーザーズガイドを参照してください。

Note: 影響を受けるメディアがライブラリユニットのドライブにロードされている場合、ドライブからアンロードされると同時にエクスポートエレメントに移動されます。これには数分かかることがあります。

Importing media

ライブラリユニットがインポートエレメントからなるメールボックスを提供している場合、システム管理 GUI のユニットのデバイスプロパティで自動インポート機能を有効にすると、オフラインのメディアをライブラリユニットに再インポートすることができます。PoINT Archival Gateway が有効になると、オペレーターが手動でロードしたすべてのメディアがインポートエレメントからユニットの空きメディアストレージエレメントに移動されます。詳細については、ライブラリユニットのユーザーズガイドを参照してください。

Note: メディアは、互換性のあるドライブを提供する操作可能なライブラリユニットで再インポートすることができます。過去にメディアをエクスポートしたユニットと同じユニットでメディアを再インポートする必要はありません。